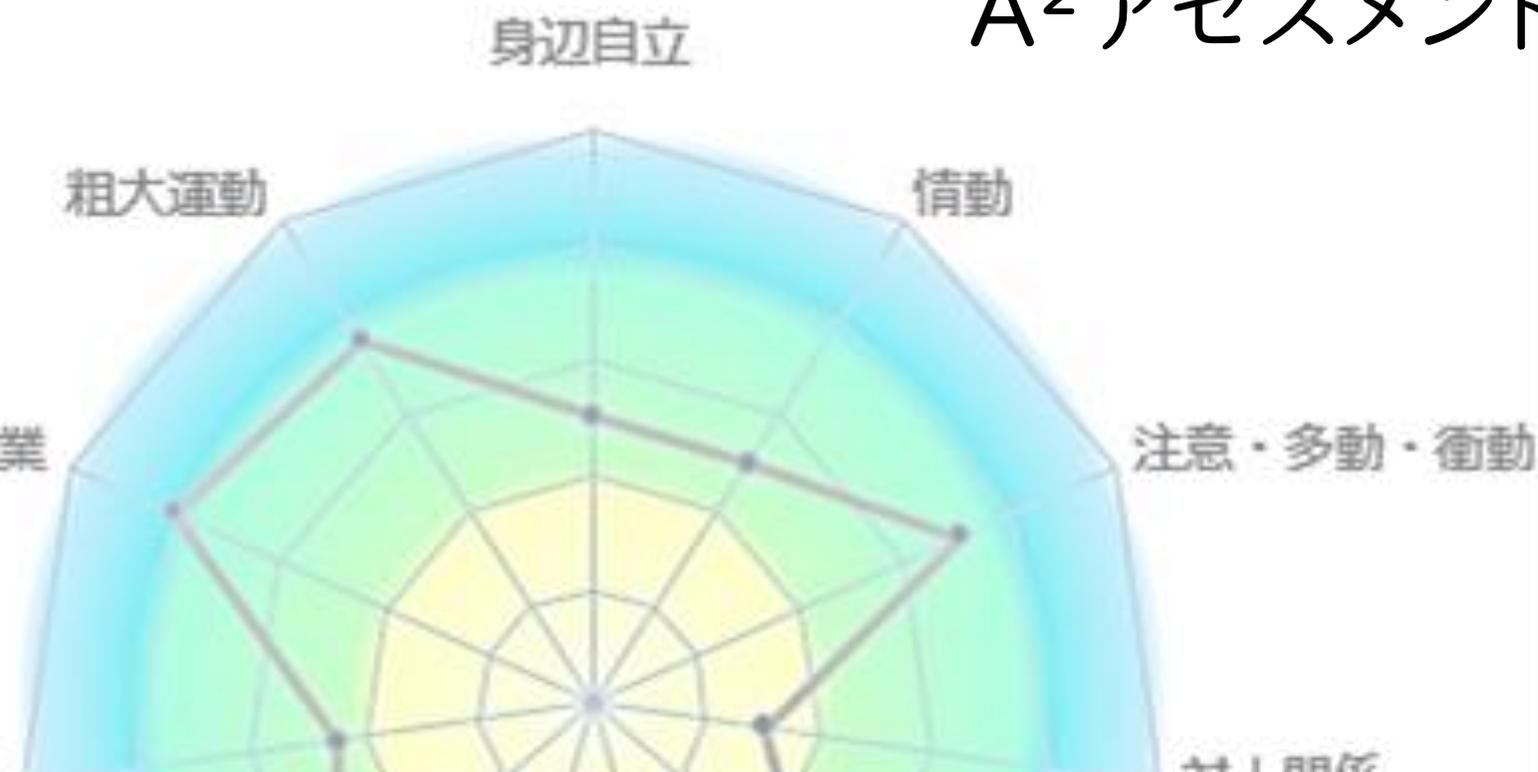


新転任研修⑥・ミニ研2

R7年度～個別の教育支援計画新様式への

A²アセスメントリーダー活用方法



もくじ

1. A²アセスメントリーダー、読みとりのコツ!
2. A²アセスメントリーダーを
【新】個別の教育支援計画に生かす方法
3. 「支援目標」や「支援方法」を導き出すコツ!

(1)

A²アセスメントリーダー

読み取りのコツ!



A²アセスメントレーダー

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
 お問い合わせ： T-IwayamaK@medu.pref.osaka.jp

支援のための発達アセスメント（0～5歳程度の発達段階用） 【様式2（実態・目標・支援） 戻る

特別支援学校学習指導要領 小学部1・2段階

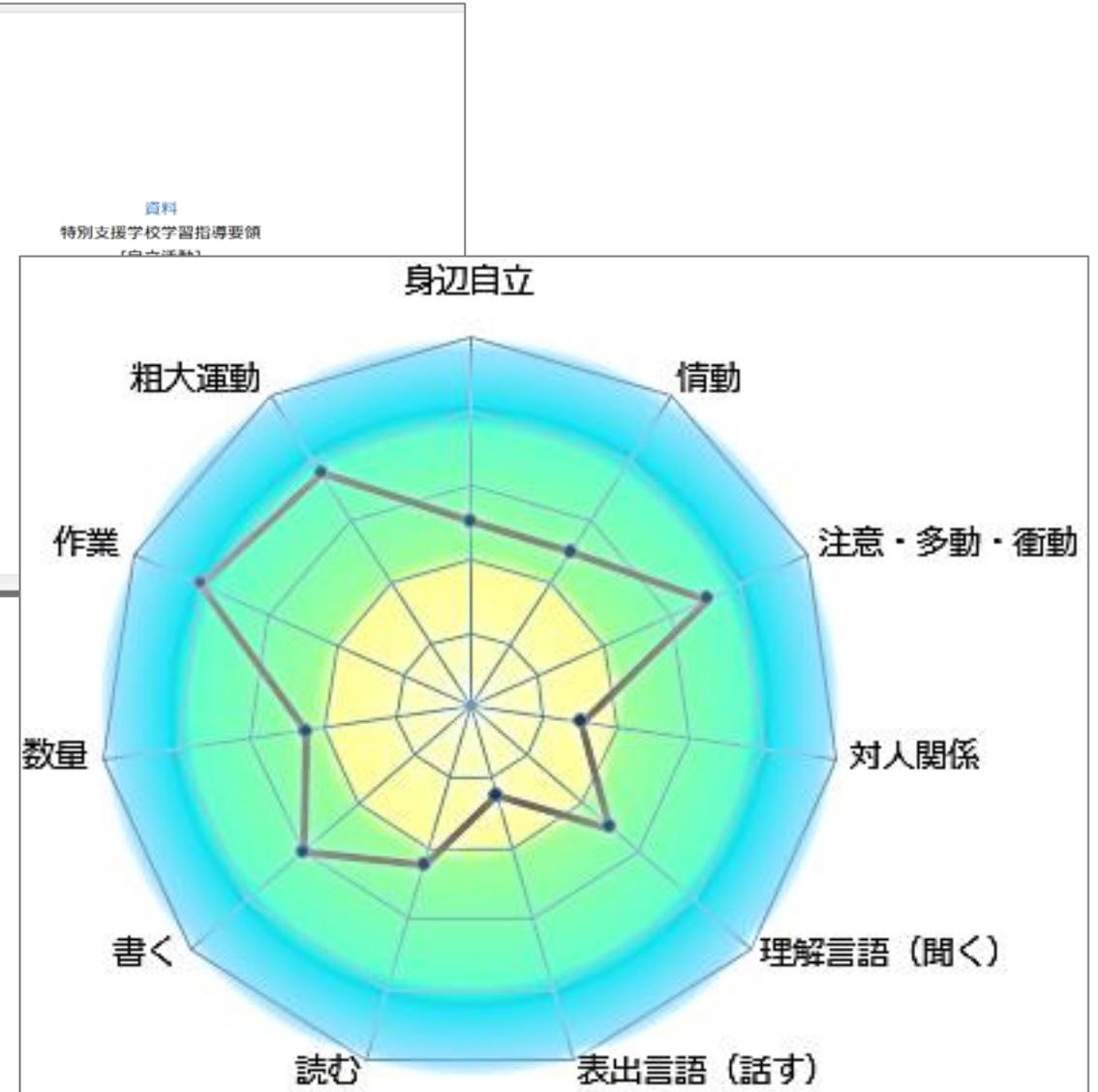
名前: _____

特別支援学校学習指導要領より

（自立活動） 主な発達区分（例）
 個別の指導計画等に活用ください
 ※下記の区分は（例）です
 子どもの実態に応じて検討しましょう

全ての質問項目にご回答ください
 ○をクリック！
 ※ 支援がなくても自分でできるかどうかをチェックします

発達領域	項目	説明	できる	部分的にできる	できない	発達区分
身辺自立	1	① 両手でコップなどの容器を持ち自分で飲む	●	○	○	4(4),5(3)
	1	② スプーンなどを使って大体こぼさずに自分で食べる・ストローを使って飲む	●	○	○	4(4),5(3)
	2	③ トイレで排泄する、手を洗った後にハンカチで手を拭く	●	○	○	1(1),4(4),5(3)
		④ 一人でパンツ・ズボンの脱ぎ履き（おしりが隠れるまで上げる）をする	●	○	○	4(4),5(3)
	3	⑤ 排泄を事前に大人に知らせる・一人で靴下を履く	●	○	○	3(1)(2),4(1)(4),5(3),6(2)
		⑥ 一人でチャック（ジッパー）のある上着の着脱をする	●	○	○	4(4),5(3)
	4	⑦ ティッシュを使って自分で鼻をかく	●	○	○	1(1),4(4)
		⑧ 生活の流れに沿って、自分で歯磨きをする（仕上げの手伝いが必要でも、自分の力で大体全体を磨く）	●	○	○	1(1),4(4)(5),5(3)
	5	⑨ 大便秘に自分でおしりを拭く	●	○	○	4(4)(5),5(3)
		⑩ 季節や状況に合わせて、自分で服を選ぶ	●	○	○	4(4)(5)

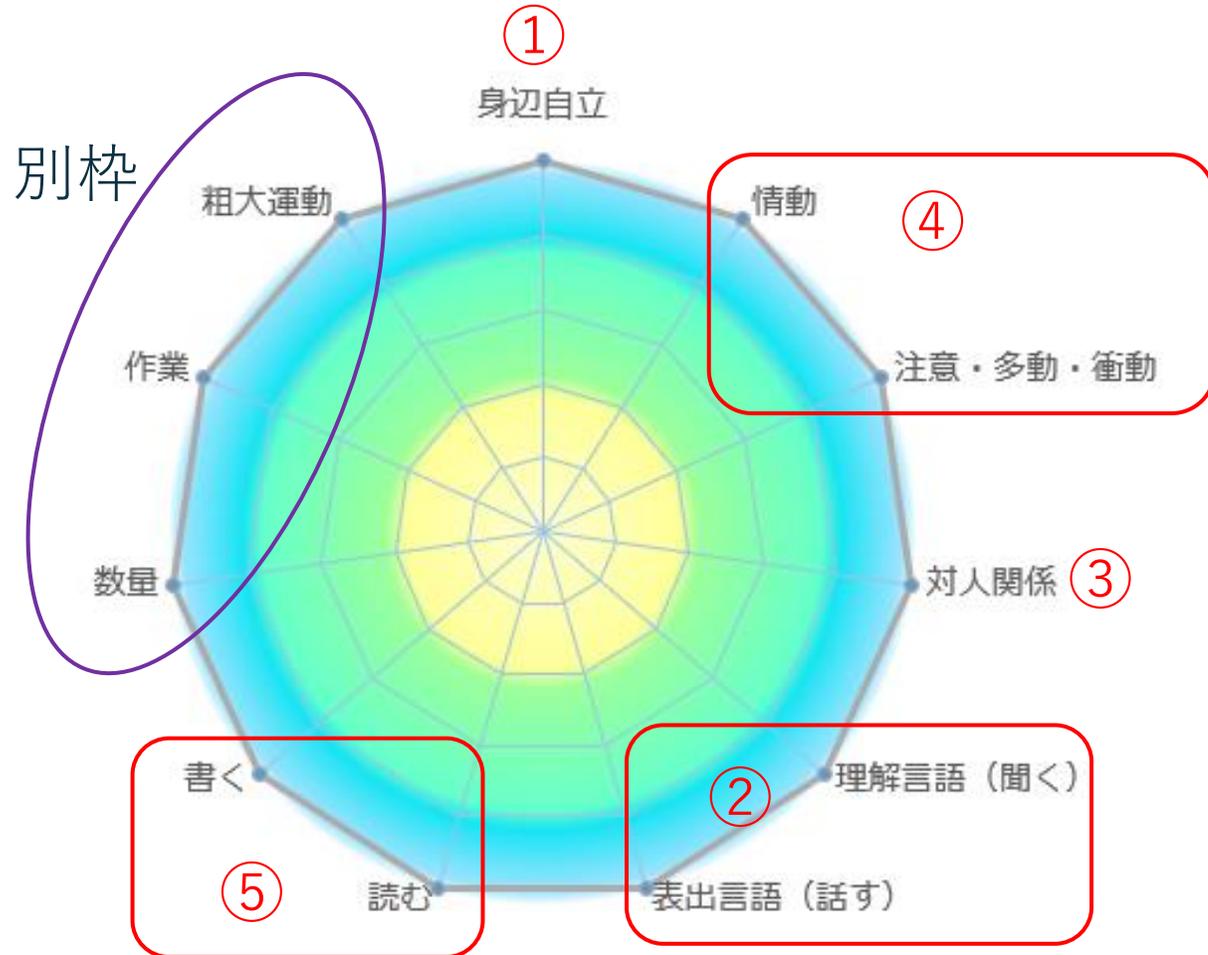


R3年より、4年間住之江支援学校では個別の教育支援計画にA²アセスメントを活用してきました。本人のおおまかな状況が一目でわかるため、支援計画のみならず、今年度も学習指導案作成時の実態把握や、児童生徒指導の場面でも課題解決のヒントとして活用されました。これまでの4年間を振り返り、先生方からよくお聞きする声にお応えして、A²アセスメントレーダーから読み取れること、読み取り方のコツについてお伝えします。



課題の設定の考え方

凹 発達に伴う優先順位①



※適切な環境設定ができているという前提

① **身辺自立** トイレトレーニングは知的発達に関係なく習得できます

トイレトレーニング・更衣

② **理解言語(聞く)・表出言語(話す)**

言語代替ツールを含む言語の習得活用

③ **対人関係**

②言語(代替ツール含)を身につけると、コミュニケーションがとれるようになる

④ **情動・注意多動衝動**

②と③が身につくことで、安心できる人間関係が構築でき、情動・行動がおちついていく

⑤ **読む・書く**

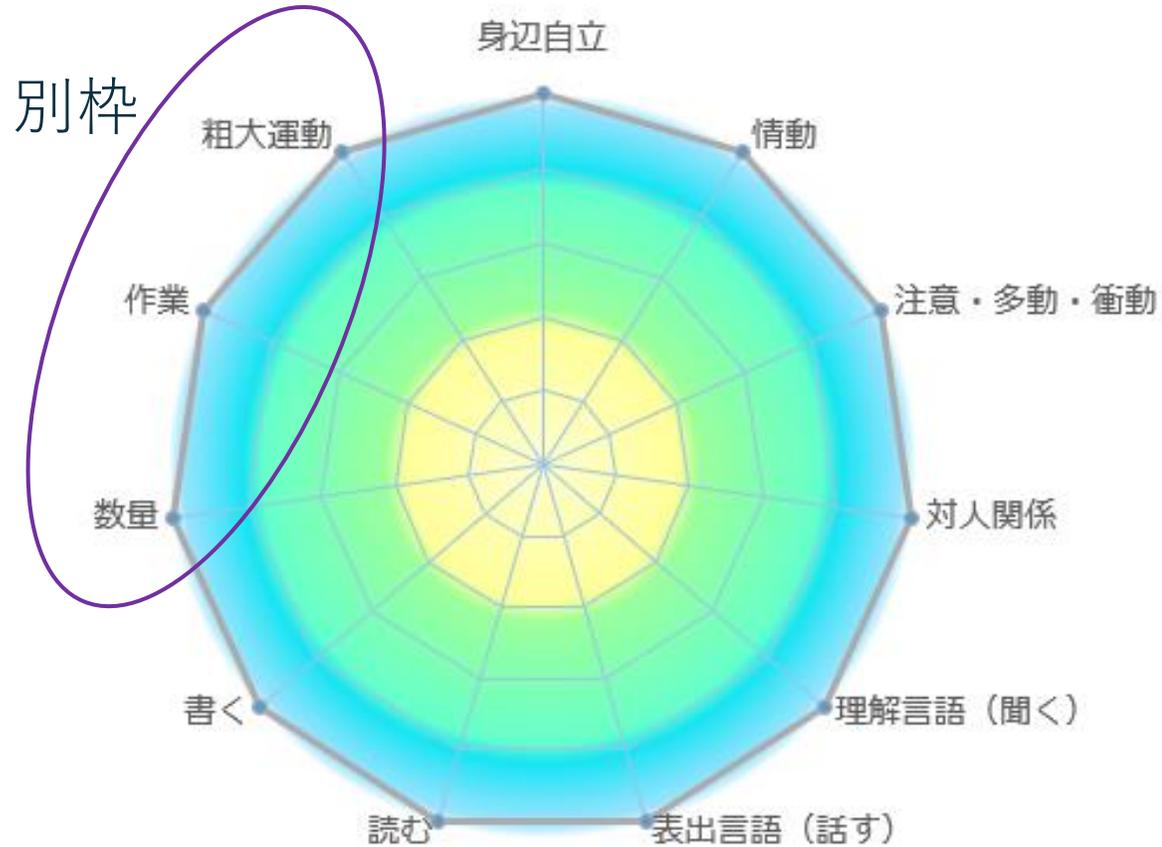
②③④までが身につくことで、学習への準備が整う

レーダーの凸凹で強みと弱みは見てわかるのですが、課題として取り組むことは、レーダーのへこんでいる部分とは限りません。レーダーの高い部分は強みとして支援に生かしていきますが、へこんでいる部分が僅差の場合は、こちらの図を支援の優先順位として参考にしてください。



課題の設定の考え方

凹 発達に伴う優先順位②



※適切な環境設定ができているという前提

粗大運動・作業の項目が凹んでいる場合
前述の①～⑤とは別で支援課題を設定

・粗大運動

ボディイメージをつかむ取り組み
体幹をきたえられるような取り組み
運動発達を促す取り組み

・作業

手先を使った自活教材を活用する

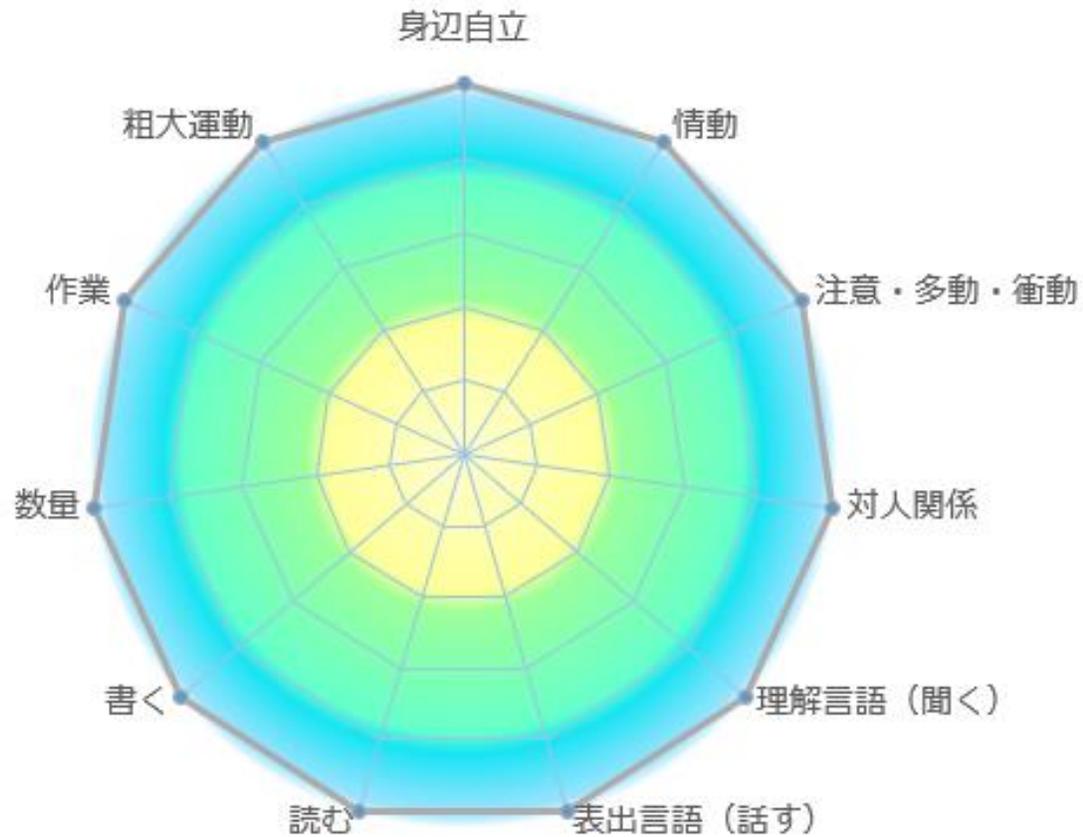
数量が凹んでいる場合

数量は全項目中で一番難しく、ほとんどの児童生徒が凹んでいます。数量以外の項目が全て高い場合のみ課題に設定します。算数的な概念理解を育てていきます。

他の部分に先に取り組むほうが、わかること・できることが増えるため、数量以外を優先します。



強みの考え方①



- **身辺自立**

体を使って繰り返すことで覚えることができる

- **情動**

気持ちが安定しているので、取り組みがしやすい
気持ちのコントロールができる

- **注意衝動多動**

行動が落ち着いているので、落ち着いて取り組める
集中して物事に取り組める

- **対人関係**

人と関わるのが好き・得意。関わり方を知っている
相手の意図が理解できる

- **理解言語**

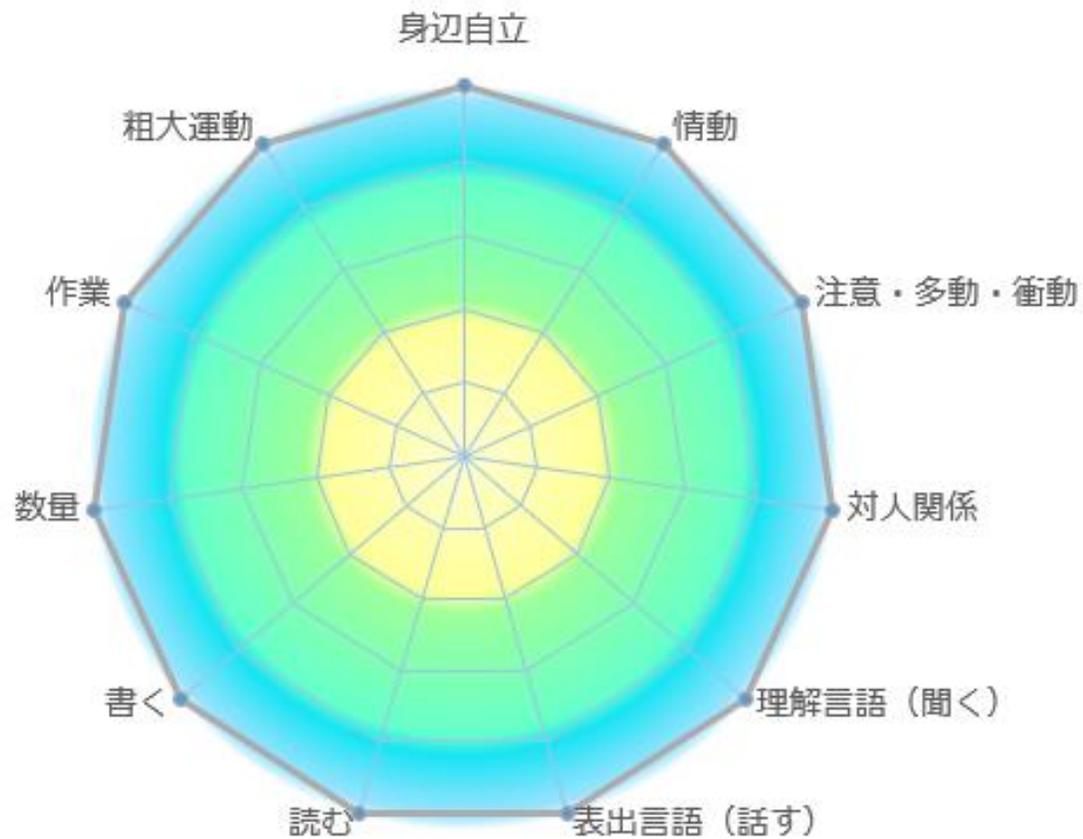
言葉で聞いたことがわかる
言葉での指示に応じることができる

- **表出言語**

言葉(身振り手振り含む)で伝えることができる



強みの考え方②



・ 読む

視覚的な情報から理解することが得意
文字を読むことができる

・ 書く

文字の持つ意味がわかる
書くことを用いた学習方法が得意

・ 数量

物事の関係性がわかる、概念理解ができる

・ 作業

手先が器用なので、作業を取り入れた学習方法が合う

・ 粗大運動

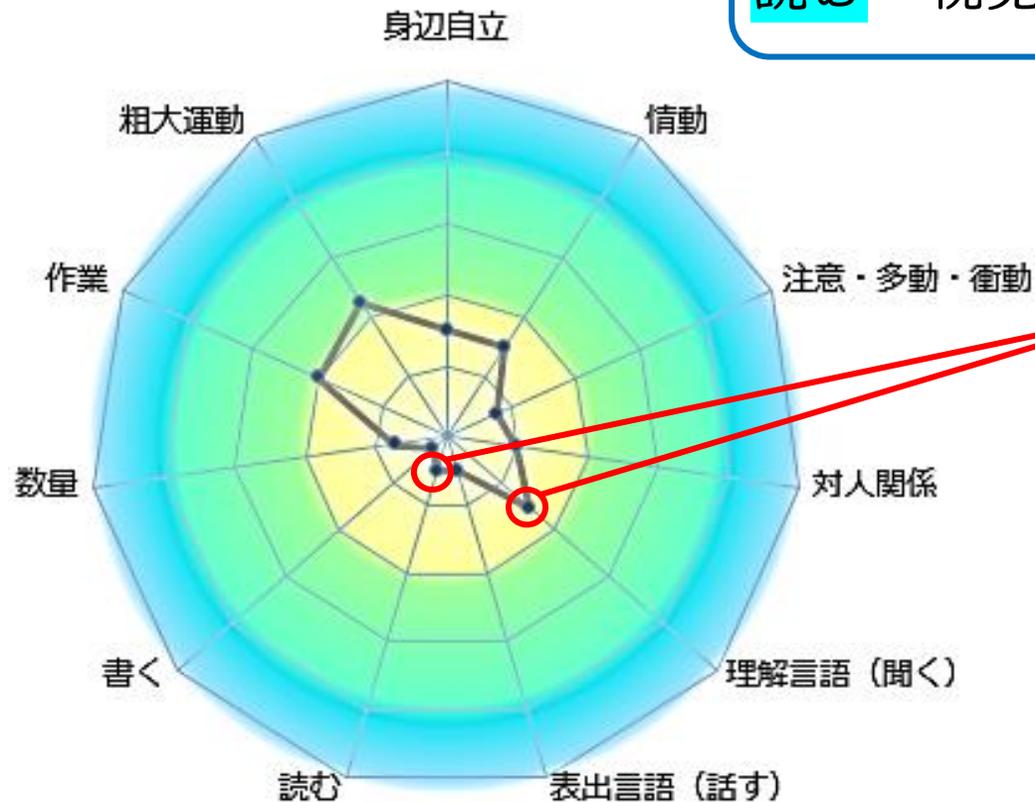
自分の意志通りに身体を動かせる
身体を使うことが得意

注意

レーダーの凸凹の差で、本人の中での得意・不得意はわかるが、
そもそも発達が幼いということをお忘れなさい！！

理解言語…言葉での指示を聞くことができる **(言葉での指示)**

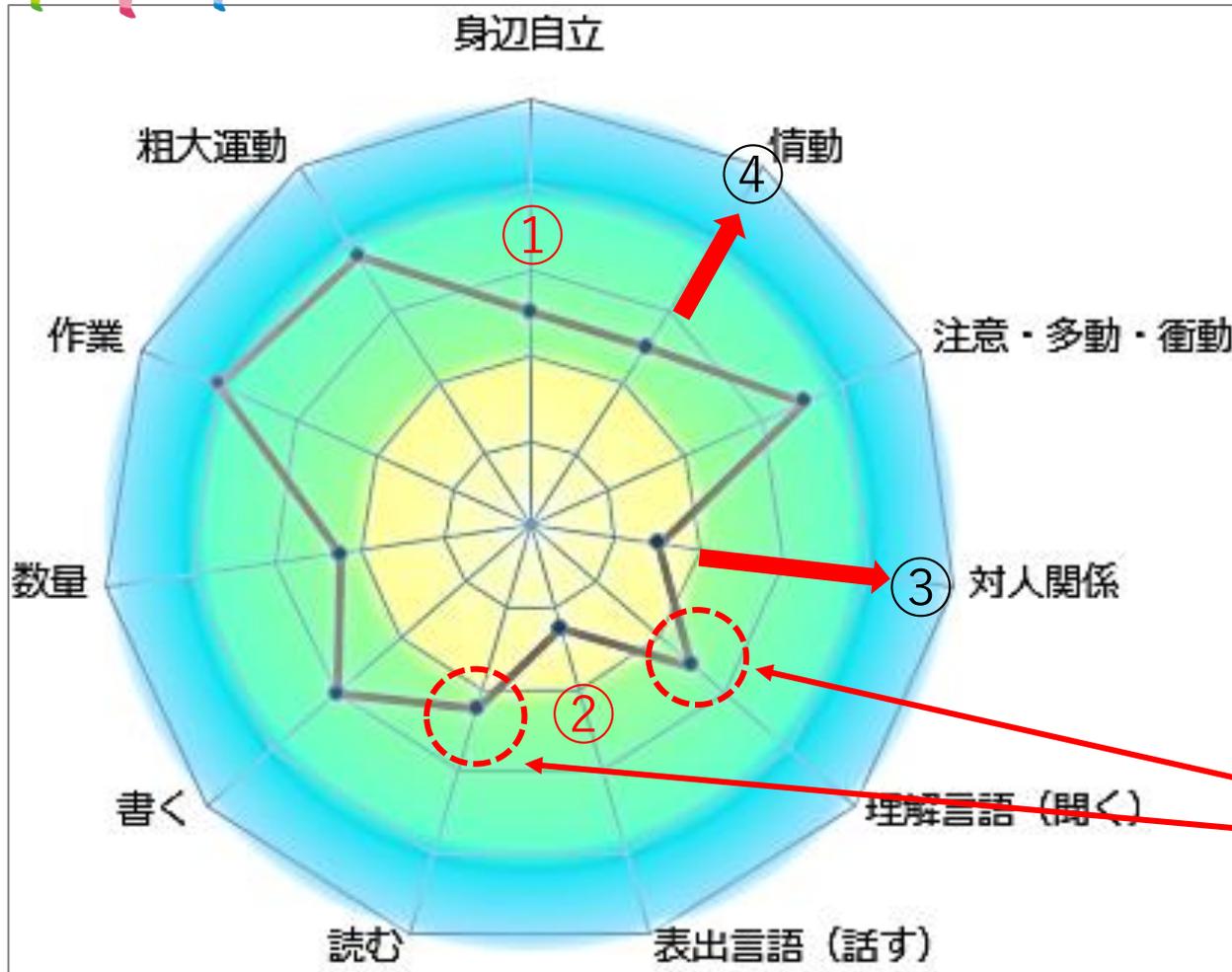
読む…視覚的な理解が得意 **(視覚からの指示)**



読むより理解言語（聞く）が高いので、言葉での指示のほうが理解しやすいが、理解言語（聞く）自体も発達的に幼いので、言葉で伝えたことが全てわかるわけではない。言葉以外にも本人にわかりやすい工夫（記憶を補うための絵カード、聞き取りやすい環境の設定など）も必要です。



エクササイズ



①身辺自立

必ず取り組む

②話すことに取り組む

この児童は発話がないため、言語代替コミュニケーションツールを活用するサイン・カード・DropTapなど
その後…

③児童からの表出が増えることによって対人関係でのやりとりが成立する

④やりとりができることによって、児童の思いが伝わり、気持ちが安定する

視覚・聴覚どちらへも支援が必要です。視覚支援をしながら、児童にわかりやすくゆっくり話す。

※そもそも発達が幼いということを忘れない！！

(2)

A²アセスメントリーダーを

【新】「個別の教育支援計画」

に生かす方法



A²アセスメントレーダーを活用した「実態」の記入方法

【支援シート】

支援シート 個別の教育支援計画 大敷町立江之江支援学校

1. 本人に関する情報

学部	小学部	年・組	1年1組	生成年月日	
名前	みょうじ しめい 名字 氏名1			担当者	

2. 本人の願い

本人	保護者
----	-----

3. 学校・家庭でのよき実態

	好きなこと・得意なこと	苦手なこと
興味関心		
心身の健康 運動・移動		
基本的な生活習慣		
コミュニケーション		
対人関係 集団参加		
学習面		
その他		

4. 支援の目標

5. 合理的配慮を含む支援の内容

支援の目標	合理的配慮を含む支援の内容

6. 支援の目標に対する関係機関との連携

関係機関名	支援の内容

7. 評価

評価	
支援の目標の達成	
合理的配慮を含む支援の内容の達成	

8. 本人の願い

本人の願い	
保護者の願い	
保護者の願い	

9. 合理的配慮を含む支援の内容

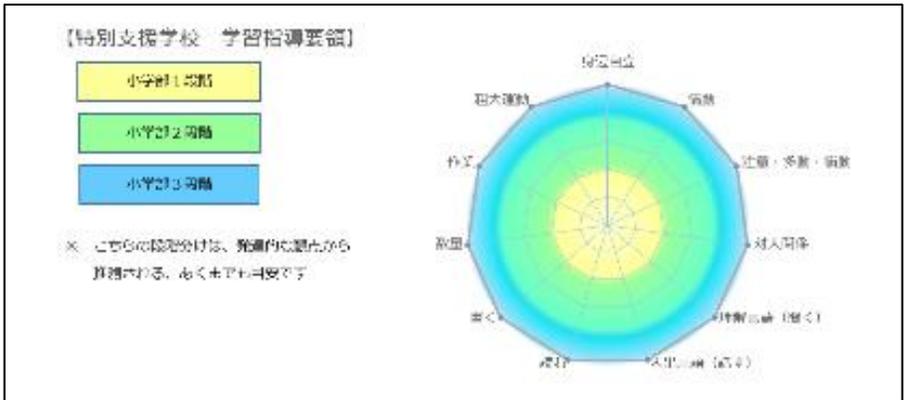
合理的配慮を含む支援の内容	
---------------	--

10. 支援の目標に対する

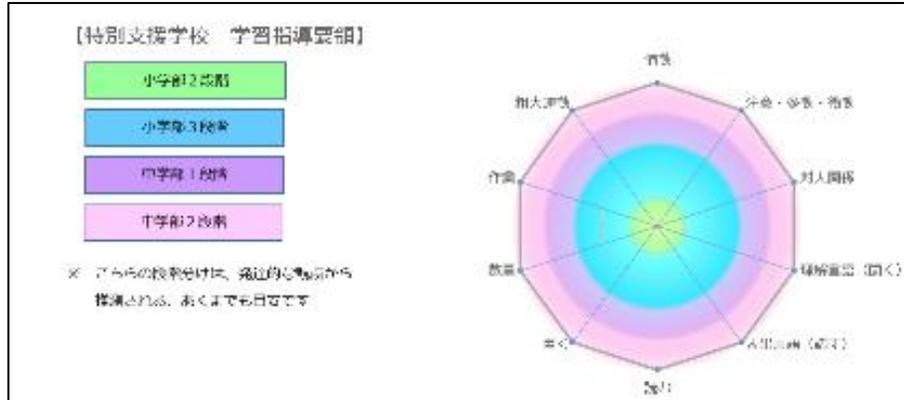
拡大図

学校・家庭でのよき実態	
好きなこと・得意なこと	
興味関心	
心身の健康 運動・移動	
基本的な生活習慣	
コミュニケーション	
対人関係 集団参加	
学習面	
その他	

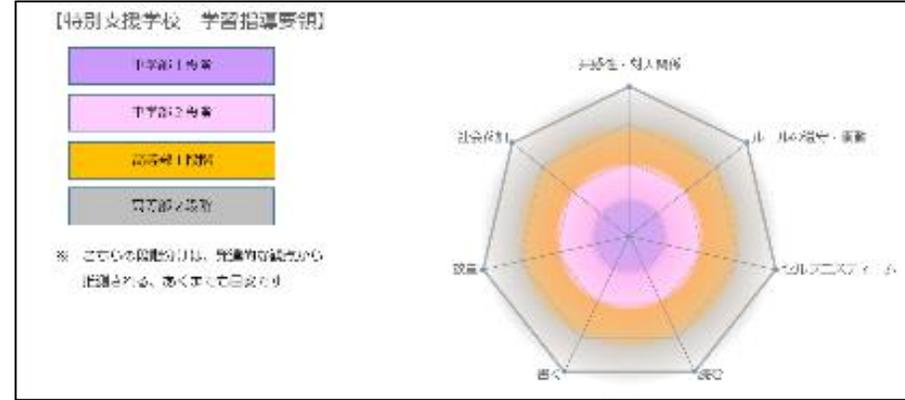
A²[支援のための発達アセスメント]



黄色

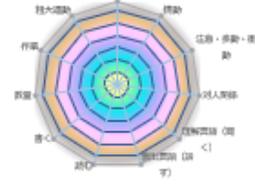


緑色



青色

学習指導要領の発達段階 共通理解事項



発達段階によって、学び方・学べる内容が異なる

学習指導要領より 段階の構成/発達のめやす	可能となる学び方	認知発達の特徴 (学びの内容)
卒業後を見据え主体的に学ぶ段階 高等部 2段階 小学6年生程度 高等部 1段階 小4～5年生	・想像しながら学べる(抽象思考) ・ことばを使って論理思考ができる 〈生徒の実態〉 物事の本質や要点を理解できていないことも多く、個々に応じた確認が必要	・仲の良い友だちとの「助け合いと懸い合い」 ・仲間集団として、大人からの自立を試みる ・集団への献身、スポーツマンシップ ・自分の可能性の意識化→自己認知・メタ認知 ・自分が直接経験したことのない事でも他者の気持ちや状況を想像して、理解・共感できる ・抽象思考ができるようになり、口頭説明や、文章のみでも理解・思考ができるようになる
9～10歳：注意変換の始まり。この段階を越えると一般的には「知的障害」の診断基準ではなくなる	目的に向かって主体的に学ぶ段階 中学部 2段階 小学3年生程度 中学部 1段階 小学2年生程度	・自我的発達：社会的なモデルが必要 ・周囲の大人たちの対応をよく観察している ・友だちと協力的に、チームでの活動ができる ・集団の中で、「自我の形成・社会適応を学ぶ」 ・平等を求める：「ルールは皆で守る」など ・目的に向かって主体的に動くことができる(支援学校では、この段階でも社会性の発達は小学部段階前半の生徒は多い) 知的発達の遅れ： ワーキングメモリーの課題に要配慮
場面や様子に自ら気付きながら、適宜の支援で主体的に学ぶ段階 小学部 3段階 小学1年生程度	小学部段階 実際の体験・感覚と言葉をその場で結び付けながら概念を形成 (プリント学習で学べること少ない)	・身近な大人をモデルにして価値観を育む ・他者理解が進み、子ども同士で内潜に遊ぶ(小学部3段階でも、社会性は小学部2段階以下の児童生徒が多い) ・状況に合わせて、自分の行動を適応させる ・お互いをあまり意識せずに友だちになれる
言葉を添えたモデルを見て模倣するなど、支援を受けながら学ぶ段階 小学部 2段階 3～5歳	具体的な体験・経験 を基に学び 経験的パターンを基に行動する 〈児童生徒の実態〉 ・学習経験により読み書き・計算が作業的にできるが、意味理解が伴っていない →「 <u>体感</u> — <u>言葉</u> 」による概念形成が必要	5歳 ・完全な文を使って、出来事を伝えられる ・目的に向かい、少人数で、特定の友だちとやり取りしながら協力して遊べる ・「良い・悪い」を理解し「罪悪感」を感じる ・自分と他人は見えているものが違うことがわかる(自分には表面でも、相手には裏) ・数の意味や、シンプルなルールを理解する ・他者と一緒にごっこ(ふり)遊びをする ・大人と一緒に特定の友だちと関わりを持つ ・気持ちの折り合いをつけることを学ぶ ・2～4語文で話す/200語程度まで語彙UP
より直接的な援助を受けながら体験し、学ぶ段階 小学部 1段階 1～2歳	感覚的体験/一貫性 を基に学ぶ ・目が使えるようになってくる(刺激の選択・注視・手と目の供応) 〈児童生徒の実態〉 概念形成・情緒的安定の為に、言語表出の指導・支援、ルーティンと一貫性が重要	2歳 ・色や形・大小の区別ができる ・大人を介して、友だちと関わりを持つ ・他の子と一緒にいても、各々1人で遊ぶ ・生活でのシンプルな言語指示に応じられる ・生活の中の一貫性を基に「良い・悪い」を知り、道徳感や社会性の基礎が育まれる ・単語を話す/50語程度の言葉を理解する ・バイバイなど簡単なジェスチャーができる
0～12か月	身体 のより直接的な感覚を基に その場の世界を体験する 〈児童生徒の実態〉 感覚刺激を繰り返して遊ぶことが多い	12ヶ月 ・指さして伝えられる ・「ダメ」がわかる ・指さしに応じる ・支援者と同じものに注意を向け、共有する ・自分の名前に反応する 0ヶ月 ・物を口に入れて噛める ・不快な状況で泣く/感情が未分化 社会的な発達の手帳 三項関係

小学部1段階：2つの発達段階で構成→発達の幅が大きい

※ワーキングメモリーとは聞いたことを短期的に記憶し、頭の中で理解や思考を行うのに必要な、基礎的な力

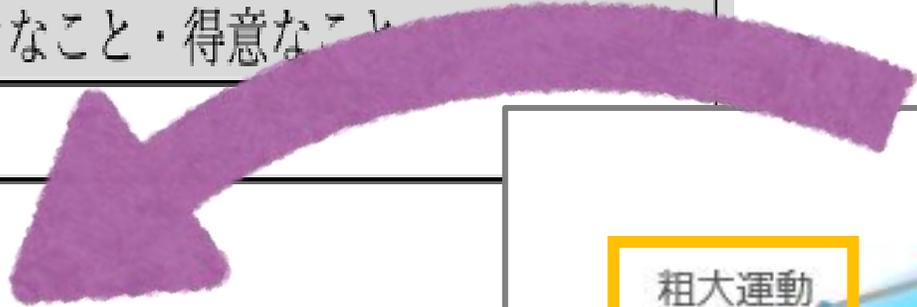
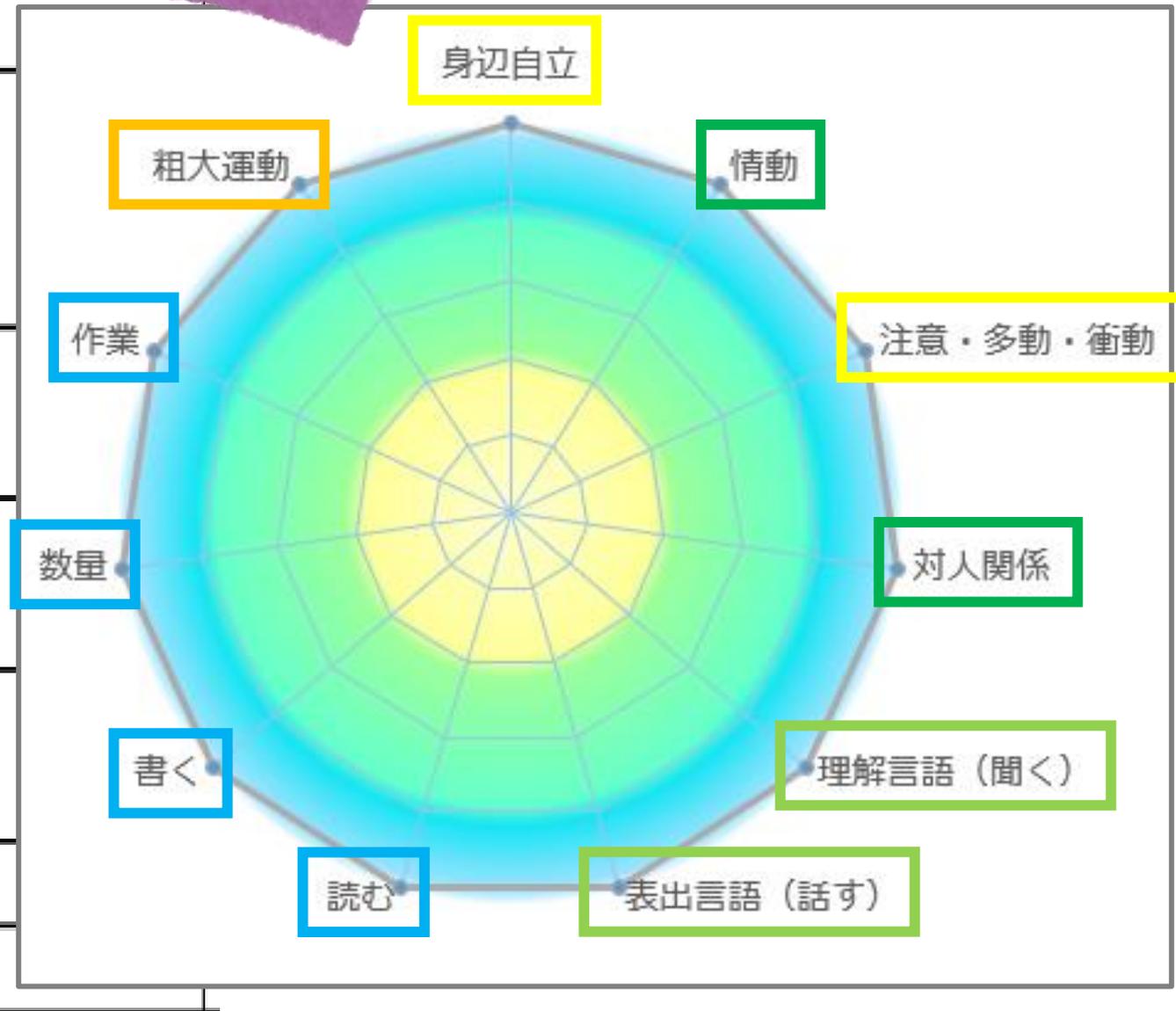
【支援シート】

学校・家庭でのよ

好きなこと・得意なこと

黄色レーダー

興味関心	
心身の健康 運動・移動	粗大運動
基本的な生活 習慣	身辺自立 注意・多動・衝動
コミュニケーション	理解言語(聞く) 表出言語(話す)
対人関係 集団参加	対人関係 情動
学習面	作業 読む 書く 数量
その他	



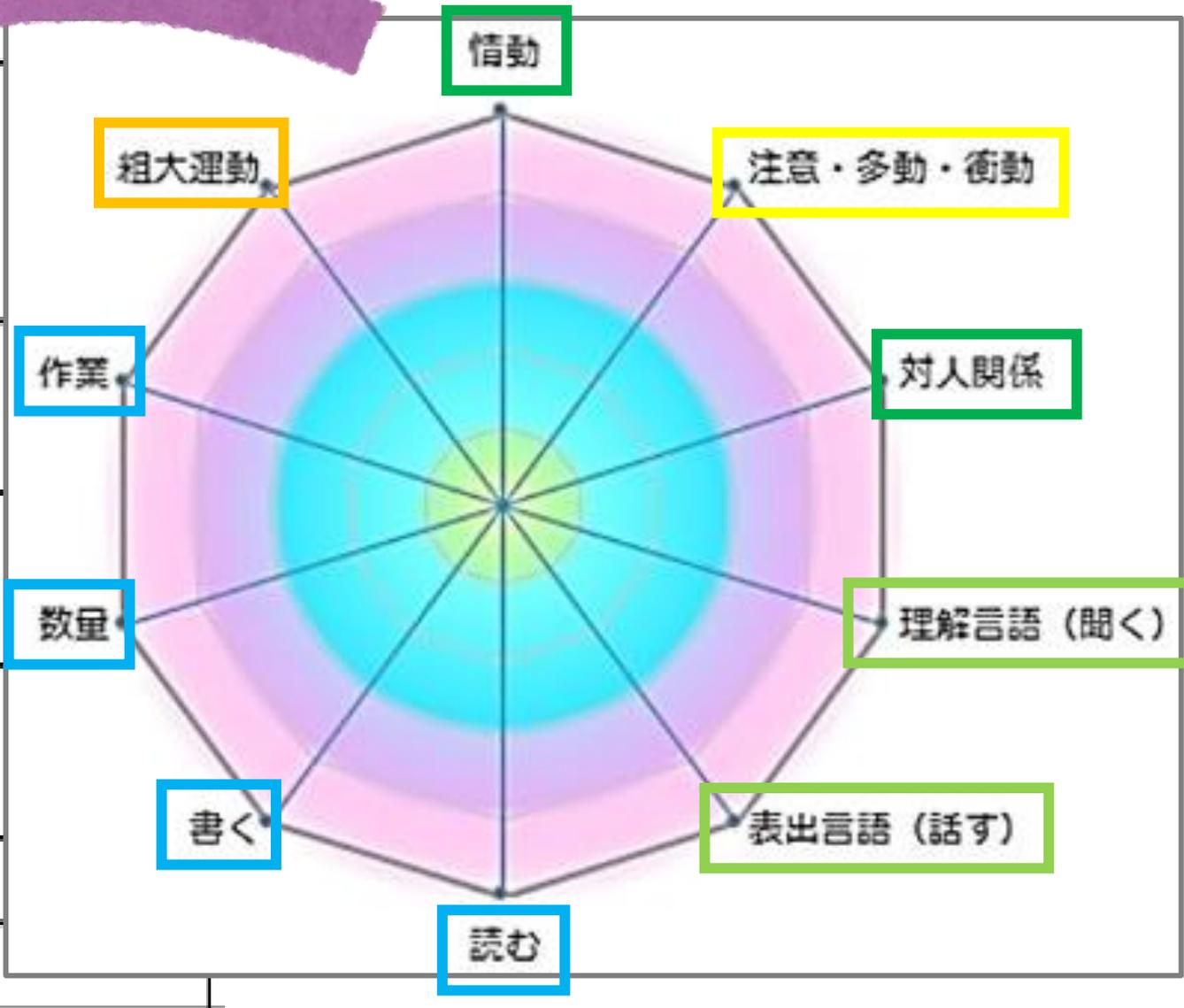
【支援シート】

学校・家庭でのよ

好きなこと・得意なこと

緑色レーダー

興味関心	
心身の健康 運動・移動	粗大運動
基本的な生活 習慣	注意・多動・衝動
コミュニケーション	理解言語(聞く) 表出言語(話す)
対人関係 集団参加	対人関係 情動
学習面	作業 読む 書く 数量
その他	

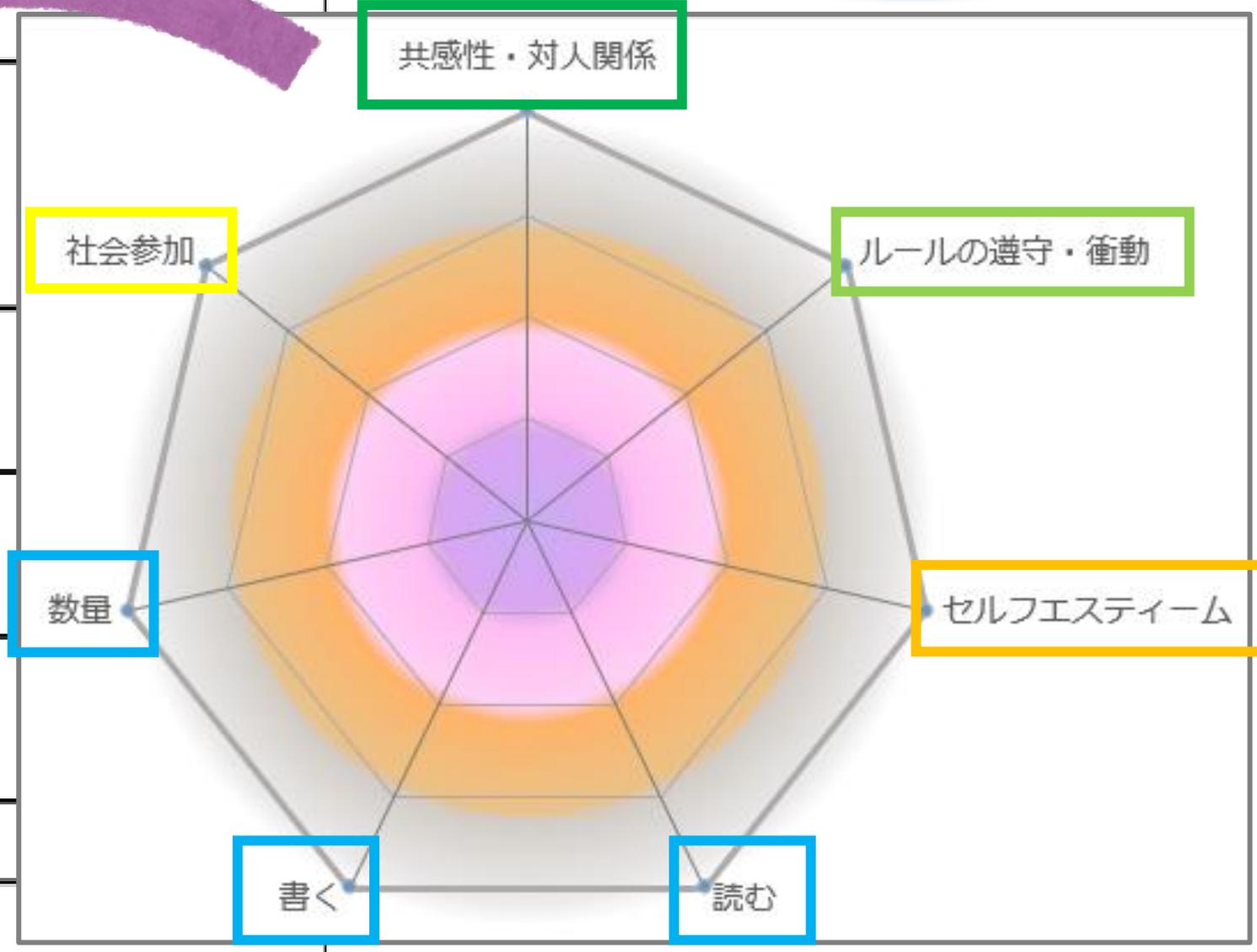


【支援シート】

学校・家庭でのよ

青色レーダー

	好きなこと・得意なこと		
興味関心			
心身の健康 運動・移動	セルフエスティーム		
基本的な生活 習慣	社会参加		
コミュニケーション	ルールの遵守・衝動		
対人関係 集団参加	共感性・対人関係		
学習面	読む	書く	数量
その他			



(3)

「支援目標」や「支援方法」を

導き出すコツ!



「目標」の設定方法

【支援シート】

支援シート 個別の教育支援計画

1. 本人に関する情報

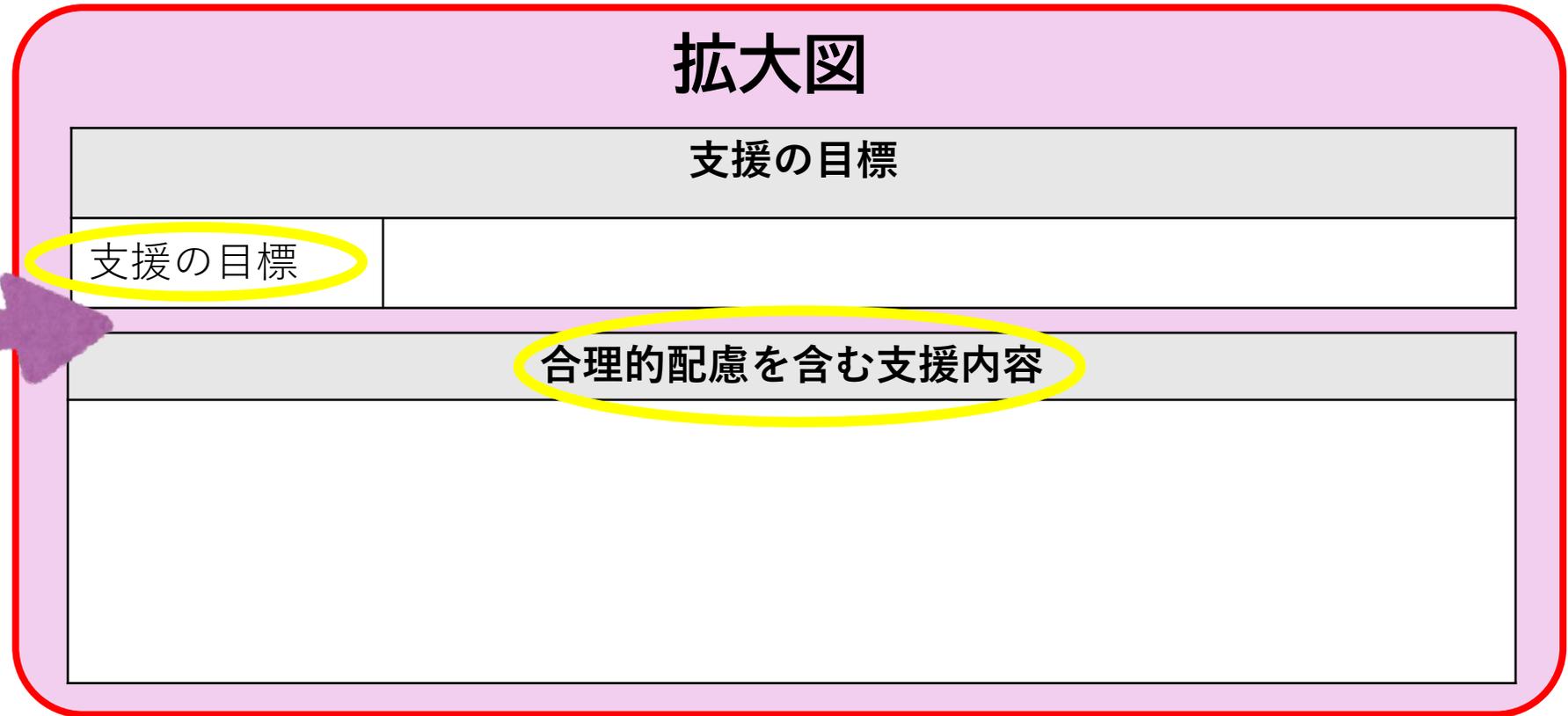
学部	小学部	年・組	1年1組	作成年月日	
名前	名字 氏名1		担当		
本人			保護者		
学校・家庭でのようす					
好きなこと・得意なこと			苦手なこと		
運動					
基本的生活習慣					
コミュニケーション					
対人関係					
集団参加					
学習					
その他					

2. 支援の方向性

支援の目標	支援の内容
支援の目標に対する関係機関との連携	

3. 評価

支援の目標の評価	評価
合理的配慮を含む支援の内の評価	
本人の思い	
保護者の思い	
関係者の思い	
合理的配慮を含む支援の内容	
支援の目標に対する	



支援目標の設定方法①

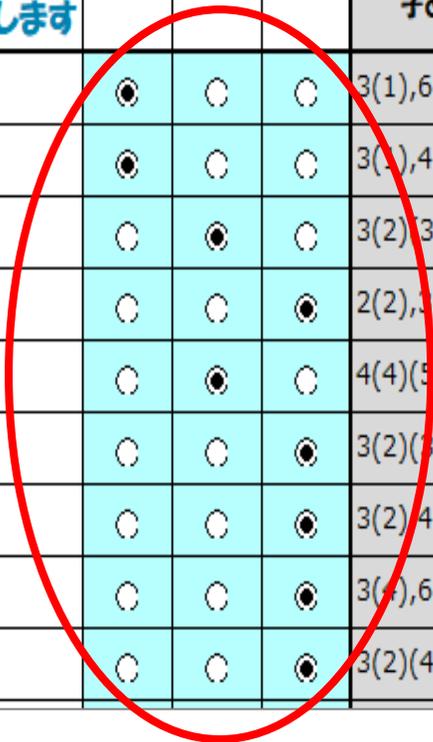
なにを目標にすればよいのか…？



★【A²アセスメントレーダー】のチェックリストを参考にしながら、次の課題を考える

						特別支援学校学習指導要領より	
め 発 や 達 す の			できる	時々又は部分的にできる	できない	[自立活動] 主な関連区分 (例) 個別の指導計画等にご活用ください ※下記の区分は (例) です 子どもの実態に応じて検討しましょう	段 階
表 出 言 語 (話 す)	4	① 自分で3語文を構成し、相手に伝える	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3(1),6(3)(5)	2 小 段 学 階 部
		② 今日・昨日または数日後の出来事などに関して、簡単な語句や文章で伝える	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3(1),4(5),6(3)(5)	
	5	③ 正しい発音で話す。状況に応じた抑揚を付けて話す	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3(2)(3),4(3)(4),6(2)	小 学 部
		④ 挨拶や電話の受け答えなど、場面に応じた決まった言い方を使う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	2(2),3(3)(4),4(4),6(5)	
		⑤ 物の用途について簡単に言える	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	4(4)(5),6(3)	3 段 階
	7	⑥ 相手の話に関心を持ち、その内容に応じた自分の思いや考えを相手に伝える	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	3(2)(3),6(5)	
	8	⑦ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話す	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	3(2)4(2),6(5)	1 中 段 学 階 部
		⑧ 小集団の中で、分かったことや感じたことを伝え合うなど、話題に沿って話し合う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	3(4),6(5)	
	9	⑨ 相手や目的に応じ、相手に伝わるように順序立てて話す、流れに添って友だち同士で話し合う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	3(2)(4),6(5)	2 中 段 学

※ 支援がなくても自分でできるかどうかをチェックします

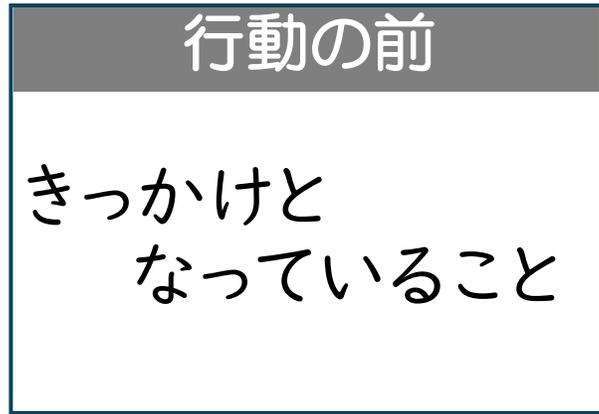


支援目標の設定方法②

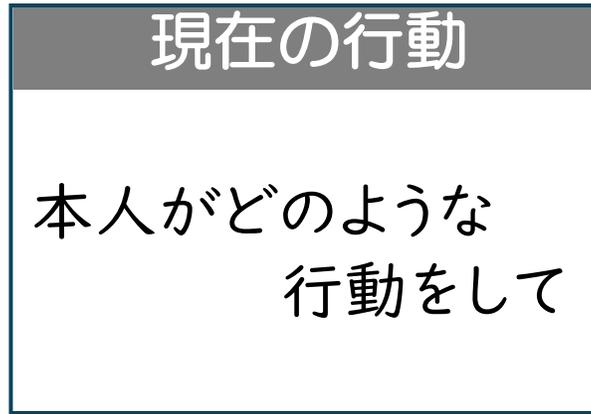
コレに困ってるんです！



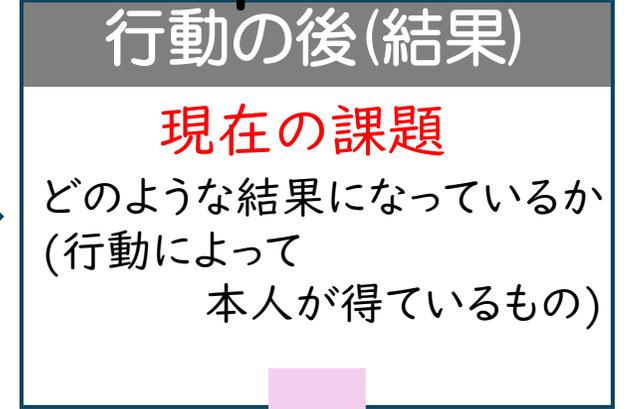
Antecedents 先行条件



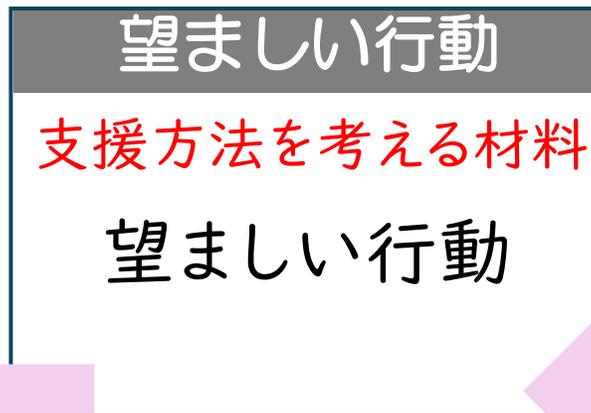
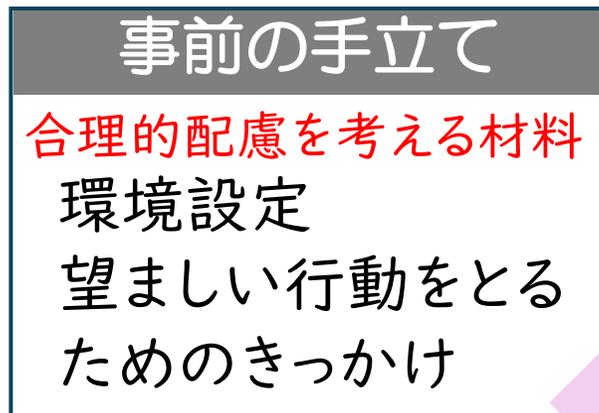
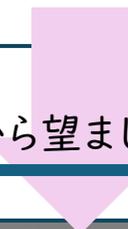
Behavior 行動



Consequences 結果



現在の結果から望ましい姿を導き出す



そのために事前にできることを考える

そのためにどんな行動をとり、思いを持つべきか

(具体例)



現状

A：行動の前

歯磨きをせずに
早くあそびたい



B：現在の行動

歯磨きセットを
教室内で
放り投げる



C：現在の後(結果)

現在の課題
やりとりに時間が
かかり、歯磨きを
しなくてもよくなる

現在の結果から望ましい姿を導き出す



支援

A：事前の手立て

合理的配慮を考える材料
環境設定：歯磨きの後、
遊ぶ時間があるという
ことが見通せる。



B：望ましい行動

支援方法を考える材料

- ・放り投げないで歯磨きができる
- ・歯磨きをしようと思える



C：望ましい結果

目標

- ・歯磨きができる
- ・その後楽しくあそぶ

そのために事前にできることを考える

そのためにどんな行動をとり、思いを持つべきか

支援

A：事前の手立て
 合理的配慮を考える材料
 環境設定：歯磨きの後、遊ぶ時間があるということが見通せる。



B：望ましい行動
 支援方法を考える材料
 ・放り投げないで歯磨きができる
 ・歯磨きをしようと思える



C：望ましい結果
 目標
 ・歯磨きができる
 ・その後楽しくあそぶ

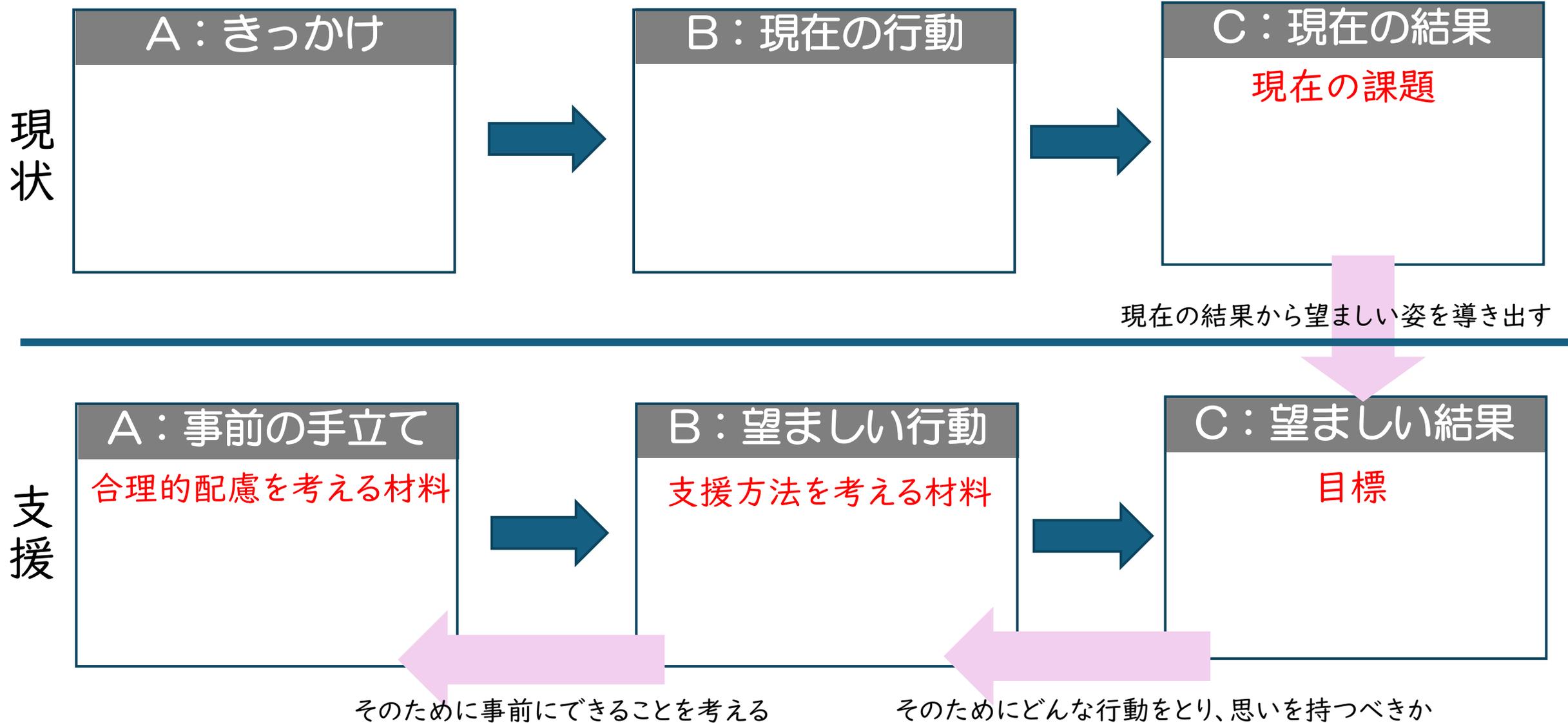


支援の目標	
支援の目標	・歯磨きの必要性がわかり、食後の歯磨きに取り組むことができる。

合理的配慮を含む支援内容

スケジュールカードを使い、「給食→歯磨き→休み時間」の流れに見通しを持てるようにする。安心して歯磨きに取り組めるよう、給食後歯磨きにかかる時間と遊べる時間を、本人がわかるようタイマー等を使って視覚的に伝える。本人のお気に入り歯磨きソングをかけ、歯磨きの時間が楽しい時間になるようにする。視聴覚教材を使って虫歯の怖さや歯磨きの大切さを学習し、歯磨きの価値を理解できるようにする。歯ブラシ等を粗雑に扱わないようにするため、丁寧に扱うことができたならシールを貼り、シールが溜まったら好きな遊びと交換できるトークンシステムを利用し、楽しみながら正しいマナーを身につける。

困っていることや課題を書き出し、クラスで話し合っ
 目標や支援方法を考えてはいかがでしょうか？





ご清聴ありがとうございました